

チップトンのナノ造粒装置、販売好調 年商 10 億円目指す

(2020/12/30 05:00 日刊工業新聞)



チップトン（名古屋市南区、小林史明社長、052・692・6666）が手がける、直径数十ナノメートル（ナノは10億分の1）級の任意の大きさの粉体を最短数秒で得られる装置「テイラー渦流ナノリアクター（TVF）＝写真」が好評だ。医薬品開発・電子部品材料生産など向けに、直近1年間で20台を販売した。

固定した円筒内で少し直径が小さい円柱を回転させる。一方から水を注ぐと細いらせん状の渦の流れができ、混ぜた加工対象を強く均一にせん断する。「テイラー渦流」というこの原理は旧知のものだが、実用化が難しかった。部品加工や組み付けの精度を高めて製品化。神戸大学と基礎共同研究も始めている。

用途別に容量0.02―200リットルを提供する。さらに容量の大きいタイプなどの品ぞろえを広げる方針。「年商10億円を目指す」（小林知之常務）考えだ。（名古屋）